

Message

リ つ つ
ン な な
ク げ が
す る る
る る る

山口県立総合医療センター
看護部

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

山口県立総合医療センター

基本理念

Principle

県民の健康と生命を守るために
満足度の高い医療を提供する

目 標

Vision

- 1.患者本位の医療
- 2.良質な医療
- 3.親切的な医療
- 4.信頼される医療
- 5.地域に開かれた医療を提供し、県民の健康に資する

山口県立総合医療センター 看護部

基本理念

Principle

看護職員は、利用者の立場に立って
安全で質の高い看護を提供します

目 標

Vision

- 1.科学的根拠に基づいた看護の提供
- 2.臨床実践能力の向上
- 3.相互信頼関係の構築

スローガン

Slogan

真摯に向き合い
寄り添う看護

ごあいさつ

Greeting

一人ひとりが、個性を大切にして
患者さん想いの看護師に育ってほしい

当院は、県の医療の中核を担う高度急性期病院です。私たち看護部は、様々な病態や背景の患者さんに「真摯に向き合い 寄り添う」ことで、質の高い看護を提供することを目指しています。そのためには、確かな知識と技術、対人関係能力などを身につけ、そして実践していくことが求められます。教育体制を充実させると同時に、学びあえる環境づくり、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。一人一人の看護師が患者さんのことを一番に想い、患者さんを支え、必要な力を提供できる、そしてやりがいや楽しさ、喜びを感じることのできる看護部でありたいと思っています。患者さんやご家族から信頼される存在であるために、前進し続けています。



看護部長

田島 真由美

Mayumi Tajima



高度急性期医療

「治す」看護と「支える」看護

救命救急センター

救命救急センターには、救急車やドクターヘリによって様々な患者さんが搬送されてきます。患者さんだけではなく、そのご家族の苦痛や不安は計り知れないものがあります。救命救急センターの看護師には、迅速で適切な観察・アセスメント能力と看護技術が求められます。院内外の様々な機会を活用して、看護実践能力を高める努力をしています。

手術部

365日24時間体制で緊急手術にも対応し、年間4000件以上の手術を行っています。患者さんに安全・安楽に手術を受けていただけるよう、各診療科の医師と外来・病棟の看護師、臨床工学技士など関係職種と連携しています。手術室では手術中だけでなく、手術前に病室に訪問して患者さんの思いを聞かせていただき、不安を少しでも和らげられるよう努めています。



ICU

全診療科の重症患者さんを対象に、1日でも早く回復していただけるよう、医師や臨床工学技士、理学療法士、薬剤師など多職種と連携してケアを提供しています。ICUでは高度なフィジカルアセスメント能力と共に、危機的状況におかれた患者さんやご家族を支援するスキルが求められます。多くの医療機器に囲まれる環境ですが、温かな看護を提供できるよう、スタッフ一丸となって頑張っています。

病棟

『元気に社会生活に戻る』ことを目標に、各病棟で患者さんご家族にとって最善のケアとは何か、常に考えながら看護を提供しています。病気によって身体の機能や社会的役割を失うことがあります。身体的側面のアセスメントに基づいて、多職種と連携して、患者さんの回復過程を支えています。また、地域包括ケア病棟では、多角的な視点に基づいて、在宅復帰に向けた支援を行っています。





がん医療

「がんと共に生きる」を支える看護

化学療法

化学療法は多くのがん治療に用いられます。がん治療で使用される薬剤は多種多様な種類があり、使用する薬剤によって副作用の出現頻度や程度が異なります。私たち看護師は患者さんに投与する薬剤の種類を理解した上で、注意深く観察し、患者さんの不安を軽減できるよう努めています。

放射線療法

がん治療において、局所療法として重要な役割を果たす放射線治療。形態や機能の温存に優れている上に、高齢者や全身状態の悪い患者さんでも治療を行えるという利点があります。しかし、放射線治療にも副作用があり、その内容や程度は治療部位によって異なります。副作用によってQOLが低下しないよう、予防的視点をもって副作用に対処しています。

緩和ケア

がんと診断された後、患者さんご家族は様々なつらさを体験します。心や身体をつらさを緩和しながら、日々の生活が送れるよう看護の立場から支援しています。当院には多職種で形成したチームがあり、その人らしい生活が送れるようそれぞれの専門性を活かして支援しています。



周産期医療

「家族の成長」を支える看護

産科

一般的なお産に加え、県内の医療機関からハイリスク妊婦さんを受け入れています。母体・胎児集中治療室(MFICU)を備え、産科病棟で帝王切開ができる分娩手術室があります。助産師は日々の実践の中で、高度な判断力とスキルを身につけられるよう研鑽しています。

NICU/GCU

小さく生まれた赤ちゃんや病気をもった赤ちゃんが入院する病棟です。目の前の身体状態だけではなく、その後の成長過程を視野に入れて、日々ケアを提供しています。ケアの対象者は赤ちゃんだけではなく、そのご家族も含まれます。赤ちゃんご家族との絆がより深まるよう、様々な取り組みをしています。

助産院

実践経験豊富な助産師が、妊娠中から出産後の生活をサポートしています。妊婦さん・褥婦さんの悩みにじっくりと耳を傾け、その人のライフスタイルに応じた助言をしています。助産院を利用した人がホッと一息つけ、笑顔で自宅に戻れるよう支援しています。

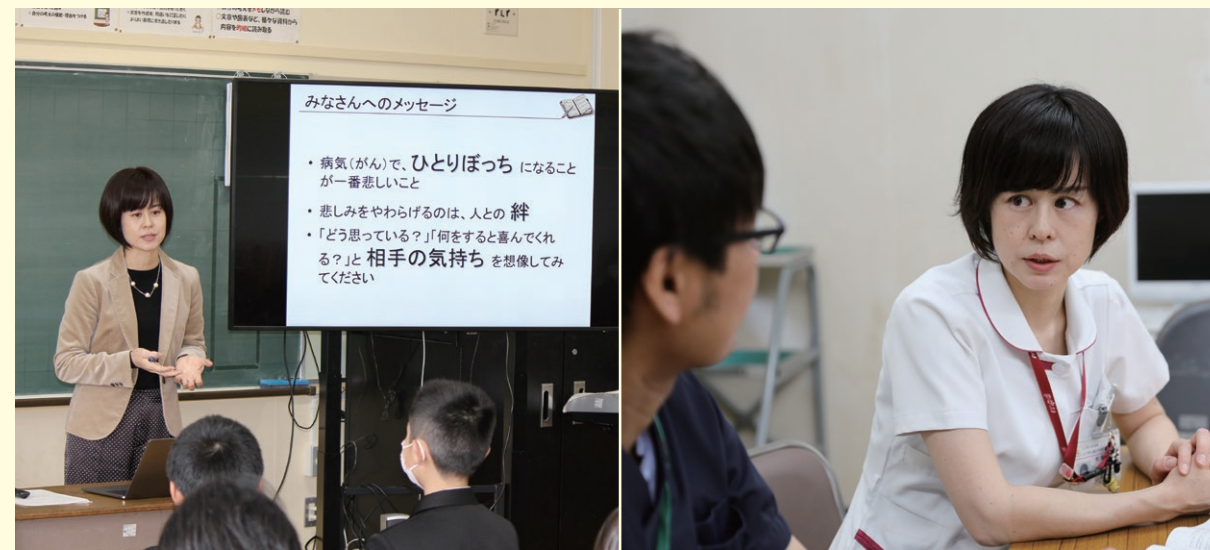
専門性を活かす

日本看護協会が認定する専門看護師や認定看護師が、様々なフィールドで専門性を発揮しながら実践しています。

患者さんやご家族により良い看護を提供したいという思いから、スペシャリストの道を選択した専門・認定看護師が院内外で活動しています。当院は高度急性期医療・がん医療・周産期医療など地域の基幹病院としての役割を担っており、複雑な問題を抱える患者さんやご家族への対応が求められます。専門的知識・視点に基づいて健康上・生活上の問題を総合的に捉え、質の高い医療を多職種と協働して提供しています。また、院内の看護の質向上に向けた体制整備や人材育成においても、実践経験を通して習得したスキルを活用して役割を発揮しています。

スペシャリスト育成

専門性の高い看護職を育成するために、教育課程への進学を支援する体制を整えています。また、院外研修の受講や学会参加の支援も行っています。



がん看護専門看護師
山本 知美
Tomomi Yamamoto

どの療養環境においても 「患者さんの最善とは何か」を考える

就職後からの数年間、がん患者さんの苦痛緩和や希望の実現について悩みながら実践していました。その悩みを解決するために大学院に進学し、専門的知識の習得と援助技術の開発に努めました。2008年に専門看護師の資格を取得してからは、院内を横断的に活動し、各部署のスタッフと共に様々な病期のがん患者さんやご家族の支援に携わっています。どの療養環境においても、“患者さんの最善とは何か”を考えながら、看護援助を提供しています。また長年、看護部教育委員会の一員としても活動しており、院内教育の運営や看護研究の支援を行っています。患者さんやご家族への支援も教育委員としての活動も全て、良質な医療の提供につながる重要な役割と考え実践しています。



急性・重症患者看護専門看護師

藤本 晃治

Koji Fujimoto

患者さんにとっての最適とは何かを チームで考え関わっていく

私は主にICU(集中治療室)で看護を行っています。ICUでは、急性期かつ重症な患者さんに対して集中的に治療や看護が行われます。ダイナミックに変動する全身状態を安定させ、元の日常生活を取り戻していけるように、医師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士などの他職種と協力して、患者さんにとっての最適とは何かを、チームで考え関わっていきます。答えは一つではありません。患者さんのために、あなたとならできる、あなたにしかできない看護がここにはあります。私たちの熱い仲間と一緒に看護をしましょう!臨床現場でお待ちしています。



感染管理認定看護師

田中 智子

Satako Tanaka

感染管理活動の目的は 患者さんや職員を感染から守ること

私は今年で勤続39年です。2005年に感染症センター担当、2010年には日本看護協会の感染管理認定看護師の認定を取得し、病院内や地域の感染管理活動を行っています。感染管理活動の目的は、患者さんや職員を感染から守ることです。現在奮闘中の新型コロナウイルス感染症対策においても、その活動は活かされています。駆血帯を巻くこともままならなかった「新人さん」が、当院での継続教育を経て、数年後には新型コロナウイルス感染症の患者さんに対しても、感染対策をして自らを守りつつ、質の高い看護を行っています。山口県立総合医療センターで、全ての看護師の共通業務である感染防止の知識を身に付け、目指す看護師像に向け、一歩踏み出してみませんか。当院は、そうしたみなさんを支援する職場であり、やりがいのある職場です。

つな
がる
想
い

つな
げる
看
護

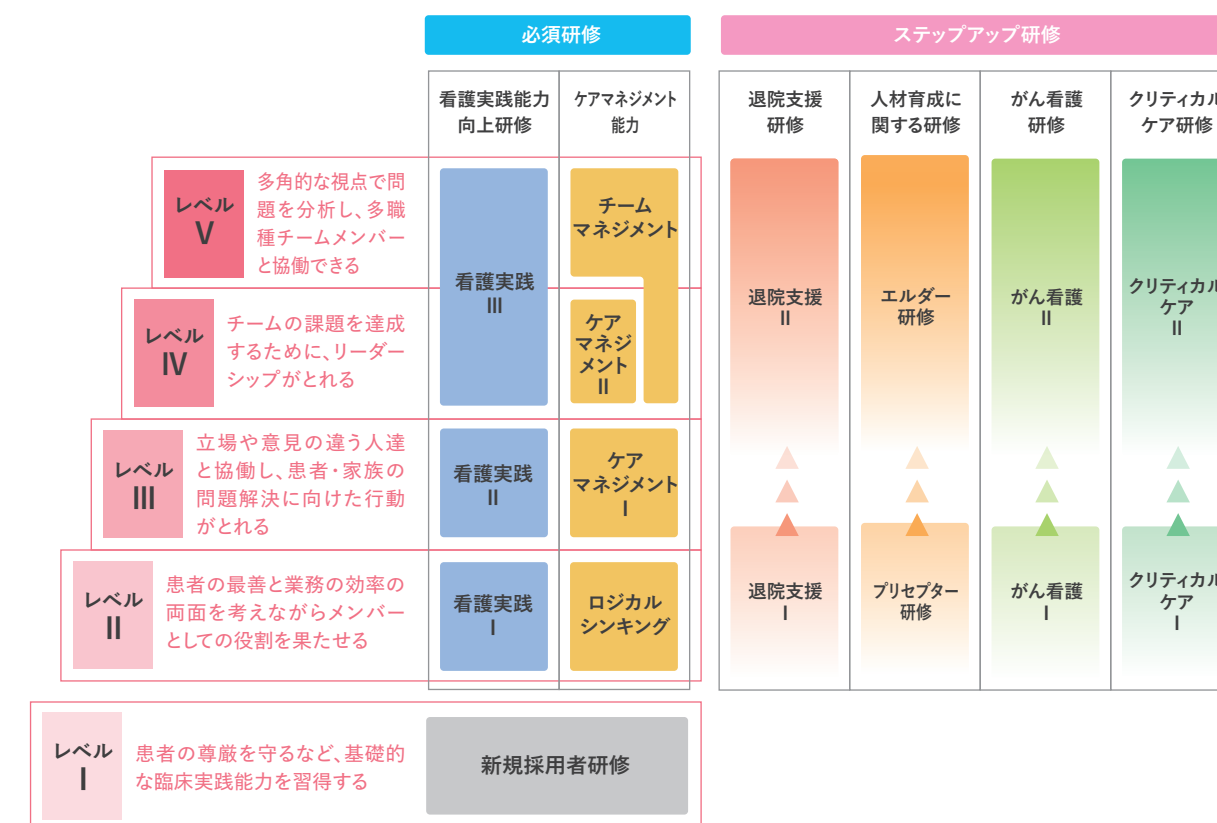
教育体制

専門職業人としての成長段階に応じた教育計画を構築し、

自律的に学習できる環境を提供しています。

職員同士がお互いに支えあい、協力し合いながら、質の高い看護援助を提供すると共に、
立場に応じた後輩育成ができることを目指しています。

クリニカルラダーと教育計画



新人教育

新人看護師さんは、未来に向けて看護を繋げていってくれる大切な存在です。
そのため、当院では、看護実践の基礎を形成する新人教育に力をいれています。
少しでも患者さんに安全・安楽な看護が提供できるように、病院全体でサポートしています。

教育方針

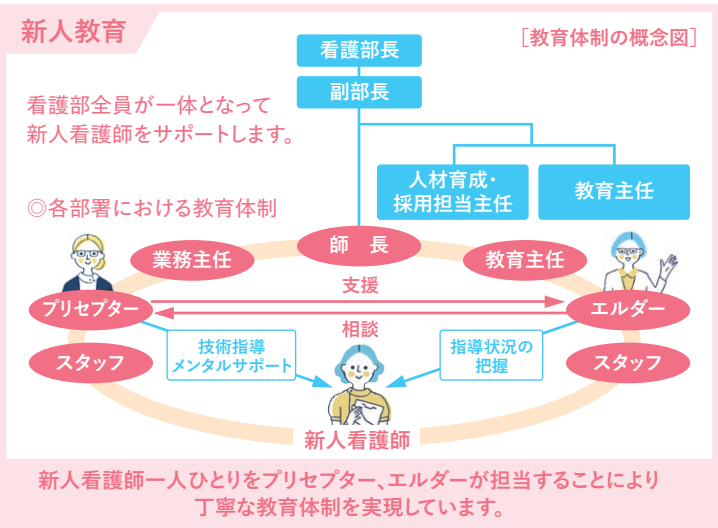
基礎教育で習得した看護実践能力を発展させます。さらに、看護専門職としての感性・態度を養い、今後のキャリア形成の基礎が築けるよう組織的に支援をしています。

教育方法

- 1.部署における教育
- 2.教育委員による集合研修
- 3.プリセプター・エルダー制度

新人看護師研修計画

4月 接遇・社会人基礎力	9月 リフレッシュ研修
5月 シャドーイングの振り返り	10月 急変時の対応1
6月 自己認知とセルフケア	11月 急変時の対応2
7月 褥瘡予防のケア	12月 患者とのコミュニケーション
8月 リスクマネジメント	3月 看護体験を振り返る



ナーシング・スキル日本語版

当院では、インターネットで誰もがいつでもどこからでも、容易に看護手順を確認・習得するためのオンラインツールを導入しています。院内ではもちろんのこと、自宅でも学習できる環境を提供しています。

新人看護師のサポート体制

当院では、プリセプター・エルダー制度を導入しています。
プリセプター・エルダーと呼ばれる先輩看護師が新人看護師さんの相談に乗り、指導を行っています。
看護部では、人材育成・採用担当者が新人看護師研修の企画やサポート、面談などで新人看護師さん個々に合わせた支援もしています。



命と向き合う責任の重さを日々実感しています。患者さんの安心や笑顔に繋がるよう、日々指導者の方から多くのことを学び立派な看護師になれるよう努力したいと思います。

[新人看護師さん]

新人さんと一緒に課題に向き合っていく中で、様々な視点から考え、話し合うことを大切にしています。患者さんとの関りについて、喜びや難しさを感じながら一緒に成長していきたいです。

[プリセプター]

新人看護師のみなさんが働きやすい環境作りに努めています。みなさんが安心して働けるように技術だけではなく、精神面のサポートもエルダーの役割だと思っています。

[エルダー]

新人看護師さんの悩みや不安が少なくなるように、新人看護研修や面談を通して部署外からのサポートを行っています。また新人看護師指導者の支えにもなれるよう頑張っています。

[人材育成・採用担当主任]

3年目看護師の一日



出勤、点滴・内服薬準備、情報収集(PC・訪室)、
申し送り、情報共有

8:30

出勤してからはまず、その日担当する患者さんの点滴・内服薬の準備、情報収集を行います。電子カルテからだけでなく、患者さんの部屋に訪室し、自分が必要な情報を得ていきます。申し送りの後は、看護師間で患者さんの情報を共有します。

清潔ケア

8:45

清拭・陰部洗浄・更衣を行い患者さんの保清援助をしていきます。保清だけでなく皮膚状態の観察なども行うようにしています。

点滴作成、指示確認、バイタルサイン測定、
観察、処置(薬剤投与、吸引など)

9:30

体位変換、オムツ交換、血糖チェック、経管栄養実施、
患者さんの食事準備・配薬

11:00

2時間ごとに動けない患者さんの体位変換を行うことで、褥瘡発生を防止します。その後は昼の経管栄養を実施します。また、食事のある患者さんはそれぞれのADLに合わせて食事のセッティングや介助を行います。

12:00

休憩

13:00

カンファレンス、午後の予定の確認

14:00

バイタルサイン測定、観察、処置

15:30

体位変換、オムツ交換、看護記録記載

16:30

前夜勤務者への申し送り、引き継ぎ

17:15

業務終了

認定看護師活動日の一日 ～皮膚・排泄ケア認定看護師～



◎院内のコンサルテーション患者さんの対応
◎対象患者さんの情報収集、アセスメント、
看護計画立案と対応、評価
◎スタッフの相談対応や指導
◎褥瘡委員会、リンクナース委員の勉強会の企画
◎NST、理学療法士、栄養士などの多職種との
情報共有・調整 など

8:30～

12:00

休憩

褥瘡回診(第1・3火曜日)

14:00

院内で褥瘡のある患者さんの回診を、形成外科・皮膚科医師とともに行っています。事前に褥瘡に関連した記録を情報収集し、褥瘡の治癒に向けて、適切なケアと療養環境が整っているか一緒に考えたり、スタッフの指導を行っています。

ストーマケア外来(第1・3水曜日)

15:30

患者さんのケアの習得状況や社会復帰の状況などに応じて、装具の選択などを行ったり、ご家族の来院があれば、一緒にパウチ交換を行っています。ストーマを持ちながらも、楽しみを見つけることができたり、安心して自宅での生活を継続できることを大切にしています。

下肢創傷ケアセンターカンファレンス(第1・3火曜日)

16:30

血管外科・形成外科の下肢創傷を有する患者さんのカンファレンスを実施しています。患者さんの全身状態・下肢の血行や創傷の状態、合併症、治療方針などについてカンファレンスをしています。

17:00

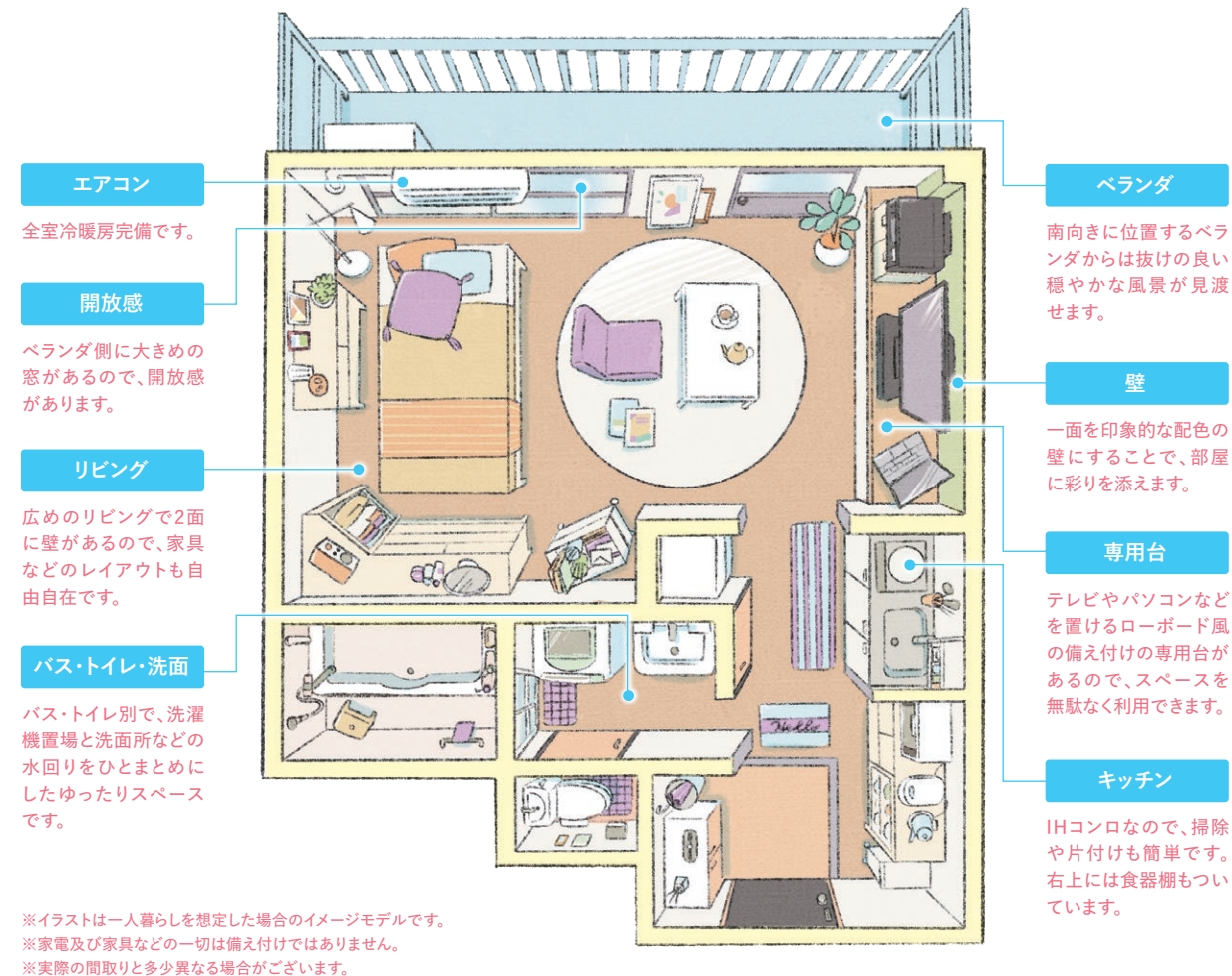
看護記録記載

17:15

業務終了

福利厚生〔看護師寮〕

看護師寮は冷暖房完備、キッチン、バス、トイレ付きのワンルームタイプで、病院から徒歩5分の場所にあります。寮の近くには、コンビニエンスストアやスーパーマーケット、ドラッグストアが徒歩圏内にあり、利便性の高い居住空間です。



福利厚生〔充実の子育て支援制度〕

育児休業、育児部分休業、育児短時間勤務、子の看護休暇など県立病院ならではの支援制度が充実しています。
長く働ける病院、ライフプランが描ける病院の実現を目指しています。



育児や仕事の相談をすることもでき とても働きやすい環境です

私は週5日の9時から15時45分までの勤務で1日2時間の育児部分休業を取得しています。育児休業から病棟に復帰する際、育児と仕事の両立ができるか不安でしたが、病棟には先輩のママ看護師が多く在籍されているため、育児や仕事についての相談をすることができています。また、時間内に仕事を終わらせるように声をかけて下さる方も多く、とても働きやすい環境です。子供はなかよし保育園でお世話になりました。先生方は優しく園内での様子を教えて頂けるので安心して預けることができました。私は、実際の育児を通し、命の尊さを再認識し、より患者さんの病気に対する不安や辛い気持ちに寄り添う事のできる看護師になりたいと考えています。

なかよし保育園

1972年4月に院内保育所として開設しました。通常保育に加え、病児保育・夜間保育も行っており、職員が安心して子どもを預け、働けるようサービスの充実を図っています。



やりたい看護がここにある

地方独立行政法人 山口県立病院機構

山口県立総合医療センター 看護部

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地

TEL 0835-22-4411

